



「男子厨房に入るべし」を実践して得た 地域との絆と家族への感謝の気持ち

男のための料理教室がきっかけで集まった、元気の団塊世代の男性たち。料理や課外授業などの活動を通し、メンバー同士の絆や地域とのつながりが生まれています。



美団キッチンクラブ 代表 吉田修平さん
連絡先: coo-ten.shu@xg7.so-net.ne.jp

仲間たちとともに 「美しく団塊世代を生きる」

与野本町コミュニティーセンターの調理室から漂う、美味しそうな料理の匂い。中では男性ばかり20数人が包丁を握り、テキパキと作業を進めています。彼らは「美団キッチンクラブ」のメンバー。

一定年退職後の人生を見据えて 地域とのつながりをつくる

男性は、女性に比べると地域とのつながりが希薄なことが多く、会社を退職後は社会的に孤立しがちです。定年後の長い人生をより豊

「美団」とは、「美しく団塊世代を生きる」の意味だとか。その名のとおり、50代から80代までの男性約30人で構成されています。平成20年に埼玉県団塊世代活動支援センター主催の講座「男子厨房に入るべし」をきっかけに結成された同クラブでは、月1回の料理教室にとどまらず、そば打ち体験を兼ねた一泊旅行に出かけたりと、活発に活動しています。

また、様々な経歴を持つメンバーが講師となり、エベレスト登攀とうはん報告や、正しいウォーキング作法といった「課外授業」も行っています。東日本大震災の時には、さいたまスーパーアリーナへ避難してきた被災者の方たちに、2日間かけて作った1500個のシウマイを差し入れ。手作りの温かさや心のこもった味が大好評だったそうです。

かにするためにも「早いうちから、地域とのつながりをつくるための行動を起すべき」と、代表の吉田さんは力説します。そのひとつの手段が男の料理教室というわけです。

それまで任せきりだった料理を自分でやってみると思ったよりもずっと大変で、これを毎日やっていたパートナーへの尊敬と感謝の思いが一層湧くとメンバーは口をそろえます。さらに、覚えた料理を家族に振る舞うことで会話も増え、家庭に潤いもつながらそうです。

「明るく・楽しく・元気よく」をモットーに、料理を通じて地域の仲間とのコミュニケーションを楽しむ。これからもメンバー同士の絆を深めながら、様々な活動に取り組み予定です。



講師の説明を熱心に聞くメンバーたち。試食時には感想を発表しあい、皆の声を聞くことで交流を深めます。

広告スペース

本誌へのご意見・ご感想は男女共同参画課まで。FAX、E-mail、HPでも受け付けています。
【編集・発行】さいたま市 市民・スポーツ文化局 市民生活部男女共同参画課
平成25年10月1日発行（次号は平成26年3月1日発行）

〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6-4-4
TEL ▶ 048-829-1231 FAX ▶ 048-829-1969
E-mail ▶ danjo-kyodo-sankakuka@city.saitama.lg.jp